

京都大学工学部

谷中 友美

京都大学大学院工学研究科 学生員 ○角野 竜也

京都大学大学院工学研究科 正会員 川崎 雅史

1. 研究の目的

本研究は、京都東山の山辺に古くからある社寺郡を中心に、文人界隈が形成され現在も観光界隈として賑わう、哲学の道とその周辺界隈を対象として、界隈の景観構成とその形成過程を把握する事を目的とする。

2. 界隈における名所の原型

本章では、この地域の名所の原型像を探るために、社寺に関する近世の絵図、地形景観の分析を行った。

(1) 限における社寺の配置

図1は、現在、対象地に存在する社寺の配置図である。東山に沿うように北から銀閣寺、法然院、安楽寺、霊鑑寺、大豊神社、若王子神社が存在している。

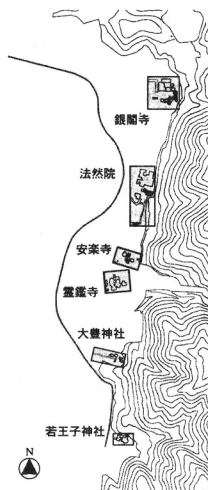


図1 対象地の社寺配置

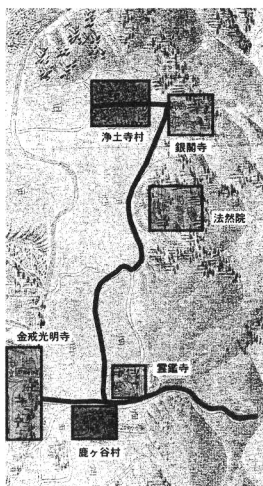


図2 界隈の原型像

(2) 界隈の原型像

近世に描かれた京都明細大絵図(図2)によると、社寺の配置は現在とほぼ同じであり、周辺は畑となっており、社寺間を結ぶ道と集落が存在していた事がわかる。すなわち、銀閣寺、法然院には浄土寺村、東山沿いの安楽寺、霊鑑寺には鹿ヶ谷村があり、それらをつなぐ2つの主要な道があったこ

とが、界隈の原型像として把握できた。

また、地形構造や社寺の配置は近世より変化がなく、現在も山辺特有の景観が展開している。

3. 哲学の道と界隈の形成

本章では、近世の界隈の原型が、明治期より出現した大学人や文人たちの影響を受けて、社寺をつなぐ道等が「哲学の道」として認識され、界隈が形成された様子を彼らが著した文献等を用いて把握した。

(1) 哲学の道の認識

明治39年、対象地の東に京都帝国大学文科大学(現文学部)が設立されたのを機に、対象地界隈には教授や学生等大学人が住まいを構えるようになった。それまで社寺をつないでいた道や、明治22年に完成した琵琶湖疏水分線沿いの道などが大学人、文人達に認識され賑わうようになり、それらの道は哲学の道(小径)と呼ばれ、界隈が形成されていった。

住居を構えた文人には、和辻哲郎、西谷啓治、渡辺千萬子、

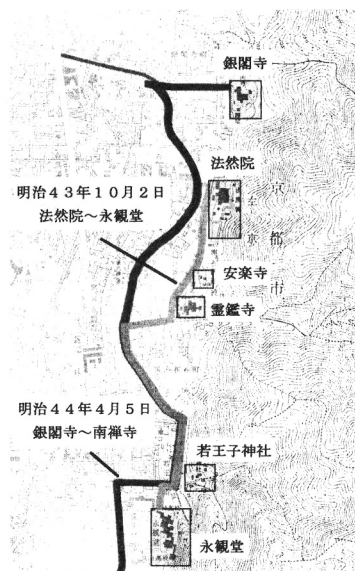


図3 西田幾多郎の散策ルート

田中美知太郎、散歩を好んだ文人には西田幾多郎がいた。彼らの文学作品には、この地に関する描写があり、網羅的に抽出した。その多くには山水のせせらぎの音が表現されている。

また、西田幾多郎（明治後期～昭和初期）の日記に記された散策ルート（図3）により、銀閣寺から南禅寺までを繋ぐ散策の道が認識されていたことがわかる。

（2）景観形成への働きかけ

明治期には、境界の景観形成へ積極的に働きかけをする人物も登場した。大正5年に銀閣寺邊へ移住した画家橋本関雪とその夫人は、琵琶湖疏水分線沿いに桜の樹を植え、境界の景観に彩りを加えた。その桜は現存する桜並木の元となり、関雪桜と呼ばれている。

4. 都市化と観光化

本章では、大正末期の都市計画によるこの地の都市化について把握し、それによる境界の変化、さらに昭和後期に出現した観光化という要素について形成過程を把握する。

（1）都市化とその影響

大正11年認可を受けた京都の都市計画において、対象地は住宅地域に属しており、人口増加が見込まれていた。実際、大正末期から昭和初期にかけて対象地における住宅の増加は非常に顕著であり、この地の都市化の象徴ともいえる。

都市化により変化したのは、琵琶湖疏水分線の利用である。疏水縁まで住宅が建つようになり、疏水は子供の遊び場になるなど人々の生活の庭として機能するようになった。

（2）観光化と境界の変容

対象地に観光という要素を与えたのは、昭和45年に行わ

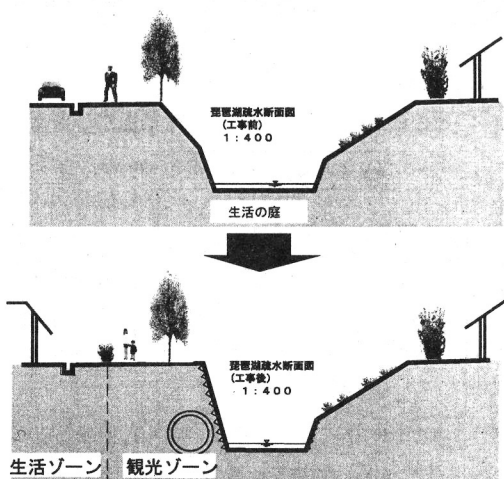


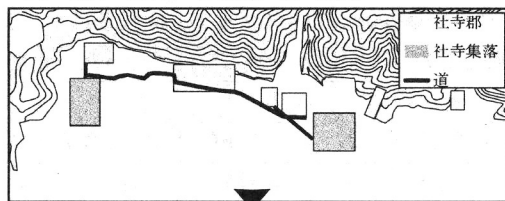
図4 疏水縁遊歩道工事前後比較図

れた琵琶湖疏水縁の遊歩道整備である。この際、地元住民による車締め出し運動（現哲学の道保勝会）により歩車分離が実現した。この整備により、観光ゾーンと生活ゾーンが生まれた。観光ゾーンには植栽やベンチが置かれ、人々の憩いの場となった。生活ゾーンにはゆとりが生じて、現在のように多くの店が建つ余地が生まれた。この2ゾーンの境界は曖昧であり、2つの要素が溶け合った様相を呈している。（図4）

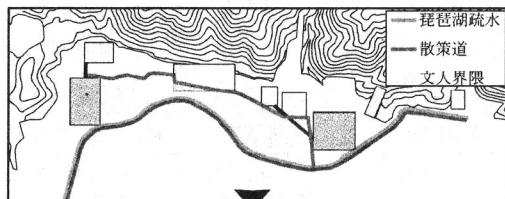
5. 結論

本研究においては、境界の空間構成や形成過程が、自然と景観の豊かな名所の原型、境界を認識し積極的に関わりを持った文人、都市化とその中で行われた景観整備によるものであることがわかった。図5は境界の変遷を模式的に表している。それらの時代ごとに積み重ねられてきた、地域への自主的かつ積極的な関わりが、境界を形成していったといえる。

2章 東山+社寺群+社寺集落+道（近世）



3章 2章+琵琶湖疏水+文人境界+散策道（明治～大正期）



4章 3章+都市化+観光化（大正～昭和期）

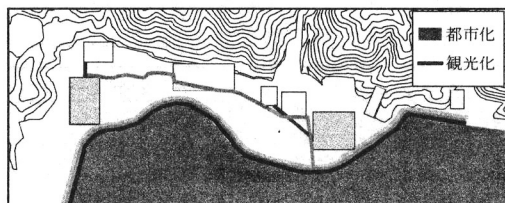


図5 境界変遷の模式図

主要参考文献

- ・ 西田幾多郎：西田幾多郎全集第十七巻、1989.3
- ・ 橋本節哉：思凡亭随想、1966.10
- ・ 京都市土木局：京都市都市計画小誌